

布川の伝説あれこれ

むかしから布川村（滝沢村といった頃もある）には、まつわる数多くの伝説があるが、これはその一、二例である。

(一) 宣撫沢の由来

布川御前堂の川向いに、小さな谷間になっている窪地がある。これは宣撫沢せんぶざいまたは千本沢といわれてきている。ここは昔から非常にさびしいところで、夜な夜なあやしげな妖怪が出没し、いつも里人を苦しめるので里人は恐れおののき、昼でさえ近づく者がなかったという。

ある日、この里人の難渋を知った一人の旅の高僧がやってきて、いく日かにわたりありがたい「宣撫せんぶ」のお経を施したところ、靈験れいげんたちどころに現あわれ、さしもの妖怪も以後プツリとその姿を現あわさなくなったという。里人はこのありがたい宣撫のお経からとって、ここを「宣撫沢」と呼んでいる。

(二) 千本沢の由来

小手姫さまがその娘錦代皇女にしんごのうしむすめを伴ない、息子である蜂子皇子はちこのおうじを探し求めてはるばるこの地布川にこられ、ここで機織の業を広められておられた。ところが錦代姫にしんごの美しさに魅せられた、近郷近在の若者たちが姫の意を得んものと寄り集り申し入れをした。

姫はこのとき使いの若者に「毎夜、宣撫沢に錦木を一本づつ立て、二年九カ月で千本をたてることのでき